

日本の戦闘者



荒谷卓（あらかや たかし）
生年月日：昭和34年秋田県出身
略歴：昭和57年東京理科大学、陸上自衛隊に入隊、第19普通科連隊、調査学校、第1空挺団、第39普通科連隊、陸上幕僚監部防衛部、防衛局防衛政策課戦略研究室等に勤務。平成16年特殊作戦群初代群長に就任。平成20年依願退職（1等陸佐）。
海外留学：ドイツ連邦軍指揮大学及び米国特殊作戦学校。
平成21年9月～30年10月、明治神宮武道場至誠館館長。
平成30年11月三重県熊野市に「国際共生創成協会：熊野飛鳥むすびの里」設立、代表を務める
著書：『戦う者たちへ』『サムライ精神を復活せよ』『特殊部隊vs.精鋭部隊—最強を目指せ』並木書房／『自分を強くする動じない力』三笠書房／『日本の特殊部隊をつくったふたりの“異端”自衛官一人は何のために戦うのか！—』ワニブックス
熊野飛鳥むすびの里のHPアドレス
<https://musubinosato.jp/>



わが国の防空主力兵器パトリオットが、ただでさえ不足しているにもかかわらず、米国に輸出される。大幅な防衛費の増額分は、すべて米国に要請のために使用され、陸上自衛隊などは定員削減までされる。米国はパトリオットを必要としておらず、ウクライナに供与されるのは自明のこと。日本政府がいくら詭弁を使っても日本以外の国は日本によるウクライナへの軍事支援と認識する。特に、ロシア政府は、日本のパトリオットがウクライナに到着すれば報復措置を取ると警告している。戦争中のウクライナに武器を供与することは敵対行為とみなすことは当然である。

さらに、米太平洋陸軍のチャールズ・フリン司令官（陸軍大将）が4月3日、米陸軍が中距離ミサイルを発射できる新型発射装置を、年内にアジア太平洋地域に配備する方針であると表明した。米軍が地上発射型中距離ミサイルを新たに配備するのは米露間の中距離核戦力（INF）全廃条約が締結された1987年以来初めてのことで、これが、日本に配備されれば、日本は自動的にロシアの核攻撃のターゲットとなる。米国は、ロシアからの核の報復攻撃により自国領土に危害が及ばない日本領土からの先制核攻撃は、躊躇なくやるだろう。

ロシアとの核戦争も辞さない岸田首相は、何の疑いもなく「グレート・リセット」を推進することが当たり前のようにして日本の針路を決めている。

ところで、グレート・リセットって何だい。何をリセットするんだ。それは、今まで人類が築き上げた歴史を全て革命的にリセットするということだよ。共産主義革命の歴史否定のもっとももっとひどいやつだ。俺たちの祖先が汗水たらし命まで犠牲にして子孫のために残してくれたものの全部をドブに捨てると言ってんだ。今年の2月、ガザでパレスチナの民族浄化を試みているイスラエルのネタニヤフ首相が「アメリカ（マッカーサー）が日本でしたような文化革命をする」と言っているように、英米の対日戦争とその後の日本占領は、日本民族の浄化（非日本化）が目的だった。だから、既に現代の日本人は祖父母との関わりは失いつつあり、

親との関係さえ希薄化してきている。共産主義国家以上に、日本は自分たちの歴史を否定するような国民になってしまったんだ。

グローバル化した世界のルール作りは、歴史的断絶が必要なんだ。夫々の国や民族には独自の歴史があり、そこから生まれた文化と秩序がある。それを破壊しなくては、グローバル秩序は形成できない。だから奴らは、世界中の国を占領し民族を浄化して歴史との断絶、伝統文化の否定を強要するんだ。そんな罠にまんまと引っかかった頭の悪い有識者が、奴らの手下になって国を亡ぼすわけだ。過去の歴史との縁を切るということは、未来との縁も切るということだ。父母や祖先、地域や日本の先人達のお蔭で自分があると思えば、自分も子供や子孫、未来の人達のために何かを成さなくてはならないと思う。それがなければ、自分は過去とも未来とも関わりがないということになり、今だけ金だけ自分だけになるか、何もする気がない状態に陥る。これじゃあ、どちらに転んでもグローバルリストの思い通りになっちゃう。なんでそんなに自分を卑下し見ても無い存在にしまうんだい。自分は宇宙の一部であり、地球を構成し、日本そのものだと思え。そうすれば、そういう生き方ができるよ。

外国の友人との関係も大事だが、それを親子の関係に優先することはない。親への孝行と子供への愛情があつての他者との繋がりがあつての集落であり、集落があつての市町村であり、市町村があつての日本、そして日本があつての国際関係だ。グローバル化のためにこれらすべてを犠牲にしたら、日本国家が死に日本人は絶滅する。俺らのような平民が世界中の人々との関わりが必要としない。それが必要なのは、世界中の人から富を奪い取ろうとしている奴等だけだ。

残念ながら、現在の日本はグレート・リセットまっしぐらで、自ら日本人であることを捨てようとしている。ふざけんじゃねえぞ！日本の戦闘者は屍を山のように築いても絶対にそんなことはさせねえ！とにかく日本を失ってはならない！

今年の5月には、WHOが提言している「パンデミック条約」と「国際

保健規則IHR改定」の決議が行われるが、日本政府はこれに賛同する姿勢を示している。これが決議されれば、WHOが独断でパンデミックの宣言を発令できることになり、加盟国に対し拘束力を持った命令ができることになる。そうなれば、政府は法的強制力を発動し国民の人権・尊厳・自由を制約してでも、WHOの命令に従うことが義務化される。具体的に提示されている内容は、ワクチン接種の義務化、ロック・ダウンとそれに伴う国民の監視・治療・追跡・隔離の義務化、SNS等情報の検閲と言論統制等が謳われており、これは事実上の国家主権の喪失であり民主主義の崩壊である。岸田内閣は、これを押し進めるべく、緊急事態条項等を法的に整備し、WHOの命令を実行できるように準備しようとしているわけだ。事実、日本政府は、WHOの議決に先行して、重大な感染症への対応をまとめた「新型インフルエンザ等対策政府行動計画」の改定案を作成していることが4月16日に判明した。感染症の科学的な知見が不十分な流行初期の段階でも、医療体制の逼迫の恐れがあれば緊急事態宣言などの「強度の高い措置を講じる」と明記しているそうだよ。

また、2020年10月、カーネギー財団（ロックフェラー財団の設立発起人ダニエル・ギルマンが設立者の一人）がグレート・リセットの手段として、金融システムに対する世界的サイバー攻撃に備えた安全保障対策を提言した。正式名称は「金融システムをより良く守るための国際戦略」というものだ。

これは、サイバー攻撃対策を理由に世界の金融・経済全てをグローバル・エリートの命令で、国家・中央銀行が統制管理できるようにするというものだ。これによって、銀行等にある全ての個人・法人の資産は、銀行が何時でも制限・停止できることになる。この下準備として、タンス預金のような個人の手持ち資産や法人の不透明な収益を廃絶するように新札を発行したり、インボイス制度を施行しているということだな。そうして最後のとどめが、サイバー攻撃対処と称して、現行の金融システムを一気に廃止し、「中央銀行デジタル通貨（CBDC）」と「電子認証シ

ステム」への統合を確立し、全ての個人・法人のマネーをグローバル・エリートが占有できるようにして、通貨の使用制限や資産の凍結・没収などができる管理体制を作ろうとしているわけだ。

百姓の俺に直接かわりのあるところでは、今年の1月、世界経済フォーラムの年次総会（ダボス会議）で耳を疑う発言が飛び出した。それは、「アジアではほとんどの地域で未だに水田に水を張る稲作が行われている。水田稲作は温室効果ガス、メタンの発生源だ。メタンはCO2の何倍も有害だ」[農業や漁業は『エコサイド』（生態系や環境を破壊する重大犯罪）と見なすべきだ]（バイエル社CEO）というものだ。これを受けて、日本政府は早速「食料・農業・農村基本法」を改正し、従来の「食料自給率の向上」「食料の安定供給」「農業の持続的発展」「農村の振興」等の方針は全て撤回され、「食料安全保障」と「農業の環境対応」を掲げた。これについて、三菱総研は、「農業基本法改正の方向性と課題」というレポートの中で次のように指摘している。「現行基本法までの考え方は、どちらかというと、農業は環境に良いというイメージで語られ、位置付けられてきた面がある。しかしながら、完全に局面は変わった。2021年5月に策定された『みどりの食料システム戦略』をより強力で発展させるかたちで、官民を挙げて食料・農業の環境対応を推進する必要がある」。この理念に則ると、今まさに欧州で大問題になっているように、げっぷをする牛を殺処分し、メタンガスを発生する水田を潰すことになる。国はすでに、牛乳の生産量が過剰だとして、酪農農家に牛乳を破棄させ、牛一頭殺せば15万円の補助金を出している。お米も過剰生産だと言って、畑への転作に補助金を出し、日本のお米農家が60kgあたり約1万5,000円かけて作った米を約1万円でしか買い取らない。その一方で、今度はバターが足りないと言って米国等からバカッ高いバターを緊急輸入している。米国産のコメに至っては、60kgあたり約3万円で毎年30万t以上買い取っている。そして、この基本法の行き着くところは、「生産性の向上」と称して外資を含む大企業に農地を転売するつもりだ。こ

の法律改正案は、2024年2月27日、国会に提出されており、成立し次第施行される。

こうして今年には、世界人類の管理ができる制度を確立し、来年（2025年）からは、実際にそれを運用しようと考えているようだ。こうなると、全ての国民は、国家を超えたところからやってくる命令で行政や司法による強制措置、国家の情報機関によって監視され、警察や自衛隊などによる実力措置によって有無を言わず、人権も自由も奪われて害虫のように扱われる。反対意見を言って講義をすれば反社会分子とかテロリストとされて監獄行きだ。

グジャグジャ考えている時間はないってことだな。このような世界的圧力に個人で立ち向かうことは難しい。だから、独りでどっかの山奥に逃げようとしても無駄だぜ。命乞いして奴らに従っても奴らの都合でいつでも殺処分にあっちゃうよ。

自分一人助かろうというようなチンケな考えなど持たず、自分が頑張ることで日本を守ろうと思う者は、日本人として身近な人と協力し、日本の伝統的正義を高らかに掲げようぜ。それが唯一の対策だ。だから先ずは自分が日本になれ。そして日本人として生きる場所を創れ。家族や仲間と団結し、生き抜くための基盤を造るんだ。あとはあいつらが自滅するまで耐えて耐えて耐えまくって日本を貫くだけだ。日本の歴史は日本の戦闘者にかかっている。日本の歴史に俺たちの魂を刻もうぜ。



今回写真は無しとし、筆者の告知とさせていただきます。この度、本誌コラム等、5年間にわたる連載コラムに加筆修正してまとめた『日本の戦闘者-現代のサムライはグローバルイズムに屈せず-』がワニブックスより発売されました。定価は1,800円+税。よろしくをお願いします。